

■ エジプト
古代遺跡が眠る博物館

借 款 額 348億3,800万円(2006年)

●大エジプト博物館建設事業

ラムセス2世像など、貴重な古代エジプト文明の膨大な遺産を収蔵する大エジプト博物館の建設を計画中。三大ピラミッドを一望できる博物館は2011年以降完成予定。



■ トルコ
アジアとヨーロッパの架け橋

借 款 額 1,728億4,200万円
(1985年/87年/99年/2005年)

●第2ボスポラス橋・高速道路建設事業1~3
●ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業1~2

2つの大陸を結ぶ全長1,510メートルの第2ボスポラス橋の建設は、交通量の緩和に貢献。人口増加により予想されるさらなる需要へ対応するため、世界最深度の海底を通る地下鉄も建設中。



■ 中国
北京五輪を支えたインフラ

借 款 額 1,925億5,200万円(1980~2002年)

●北京~秦皇島間鉄道拡充事業1~5
●北京市地下鉄建設事業1~2
●北京市地下鉄第二期建設事業1~4
●北京市鉄道建設事業
●北京首都空港整備事業1~3
●北京市下水処理場建設事業
●北京市上水道整備事業1~2
●北京第9浄水場3期建設事業
●北京市環境整備事業

円借款による地下鉄、郊外鉄道、空港、上下水道などのインフラ整備や大気汚染対策は、北京五輪の開催にも貢献。



■ 韓国
ソウル市民の足に

借 款 額 992億4,000万円(1972年/1990年)

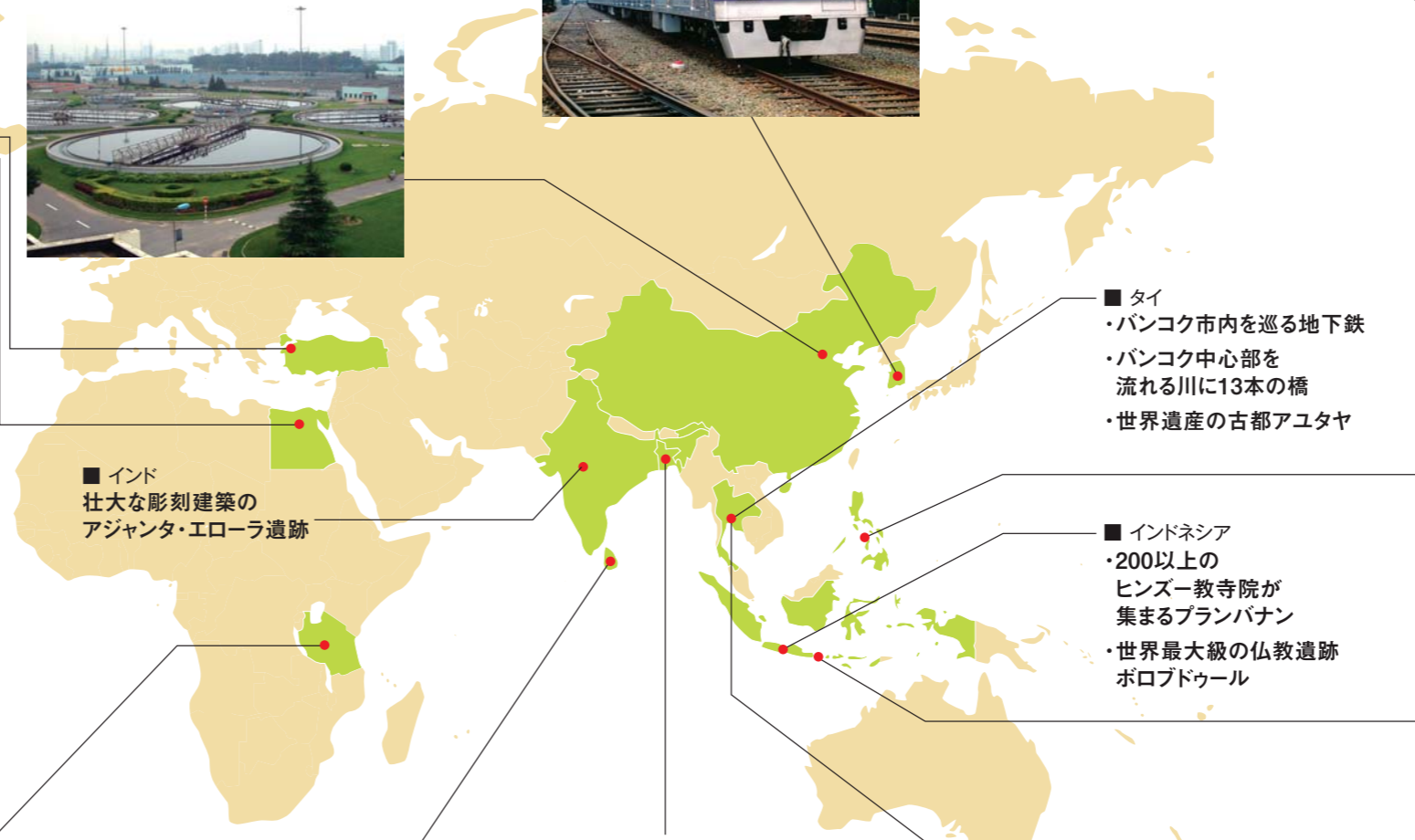
●ソウル地下鉄建設および国鉄電化事業
●ソウル地下鉄建設事業2

ソウルの地下鉄は、人口が増加する市内の渋滞緩和や排気ガスの軽減などにつながっている。また、自動車から地下鉄へのシフトが進み、今や市民の足として活躍。



JICAの円借款事業
えっ、こんなところにも
日本の協力!?

世界には、円借款が活用された国づくり・人づくりの現場がたくさんある。私たちもよく知るあの国の空港や遺跡も、実は、そうかもしれない。ここで、そのほんの一部を紹介する。



■ ブラジル
不毛の地で食料増産に貢献

借 款 額 120億2,100万円(1985年)

●セラード灌漑事業

不毛の大地として長年放置されてきたセラード地域。「日伯セラード農業開発協力事業」の中で、円借款(灌漑整備)や技術協力による総合的な協力を実施、同地域の食料増産に貢献。この成功体験のアフリカへの移転も検討中。



タンザニアの貧困削減に

2005年、貧困を取り巻く幅広い課題に速やかに対応すべく、「成長と貧困削減のための国家戦略」を策定したタンザニア。JICAは、このような政府の改革への努力や堅実な経済運営を評価し、06年度から3回にわたり総額60億円を供与。その資金は、タンザニア政府の一般財政に取り込まれ、「成長と所得貧困の削減」「生活の質と社会福祉の改善」「良い統治及び説明責任」など政府の国家戦略を実行するために有効に使われている。

この一般財政への資金供与は、14の国・国際機関の協調によるもので、各国・機関は、資金の的確な活用を促すため、予算配分や政策決定の過程などにおいて、政策提言やモニタリングを行っている。インフラ整備を中心にアジアの経済成長を支援してきた日本は、その経験を生かして、インフラ関連の政策・制度の改善に専門家も派遣して協力している。

インドネシアの
気候変動対策にも

世界3位の熱帯雨林を誇る一方、森林減少などの影響もあり、世界で3番目の温室効果ガス排出国であるインドネシア。現在、経済成長と環境保全の両立を図りながら気候変動対策を行っている。それを後押しするため、JICAは2008年、日本政府が提唱した資金メカニズム「クールアース・パートナーシップ」の第1弾として307億6,800万円を供与、政策対話を開始した。この借款は、他国・機関を含め、気候変動に特化した初の政策改善支援であり、フランスも後から参加。インドネシア政府は、JICA専門家の協力も得つつ、森林保全や省エネによる二酸化炭素(CO2)排出削減、洪水や干ばつなどの影響への対策などを進めている。

■ タンザニア
キリマンジャロ山に続く道

借 款 額 68億5,700万円(2007年)

●アルーシャ〜ナマンガ〜アティ川間道路改良事業

ケニアの首都と、アフリカ最高峰キリマンジャロや国立公園をつなぐ全長240キロの道路を改良中。観光客の増加により、地域経済の活性化や地元住民の生活向上が期待されている。



■ インド
壮大な彫刻建築の
アジャンタ・エローラ遺跡

■ スリランカ
世界遺産のシーギリヤ遺跡

借 款 額 26億400万円(2006年)

●観光セクター開発事業

5世紀後半に建てられた王宮の遺跡が残る古代都市シーギリヤ。遺跡内の老朽化した設備やアクセス道路などを円借款で整備。無償資金協力で今年7月に博物館も完成。



■ バングラデシュ
ノーベル賞を受賞した
グラミン銀行

借 款 額 29億8,600万円(1995年)

●農村開発信用事業(グラミン銀行)

低所得者に無担保で融資するグラミン銀行。円借款で村落施設などを建設し、生活向上、農村女性の能力強化に貢献。2006年、設立者のモハマド・ユヌス氏とともにノーベル平和賞受賞。



■ タイ
東南アジア最大のハブ空港

借 款 額 1,992億4,300万円(1996~2005年)

●第2バンコク国際空港建設事業1~7

24時間眠らない「スワンナプーム国際空港」。滑走路や旅客・貨物ターミナルなどを建設。年間約4,500万人が利用する東南アジア最大のハブ空港となっている。



■ フィリピン
リゾート地・セブ島の玄関口

借 款 額 111億1,600万円(1988年/1991年)

●セブ国際空港開発事業(E/S)
●マクタン(セブ)国際空港開発事業

人気リゾート・セブ島の玄関口マクタン・セブ国際空港。滑走路や旅客ターミナルビルなどの建設・改修により、大型航空機の離発着が可能になり、旅行客も大幅に増加。地元経済の活性化や生活向上に貢献した。



■ インドネシア
よみがえったバリ島の
美しいビーチ

借 款 額 95億600万円(1996年)

●バリ海岸保全事業

侵食が進んでいた南の楽園・バリ島の海岸を整備し、美しいビーチを再生。また、夕日の景勝地として有名なタナロット寺院の保全工事により、美観も取り戻した。



(注) 借款額右は借款契約年。